



## 若者 × 情熱

ミハラのチカラ

STORY 19

### 使いやすいさの中に美しさを求めて

陶芸家 安田あすかさん

優しい形と鮮やかな色の器が棚に並び、窓からは波静かな瀬戸内を進む船が見えます。須波町にある陶工房「ポレポレ」。スワヒリ語でのんびり、ゆっくりという意味の名の通りの時間が流れるこの空間でろくろをひくのは陶芸家の安田あすかさんです。

高校を卒業後に留学していたアメリカで「いびつな形だけれど、不思議と心がほっこりする」器に出会い、陶芸の道を歩み始めました。

同国で制作活動を重ね、作品展で入賞も果たした安田さんは、ビザの期限に合わせて



▲瑠璃色に幾何学的な紋様が特徴です。

8年前に帰国。さらなる高みをめざして修行できる窯元を探しましたが、そこで出会った多くの陶芸家に、「日本で陶芸を学ぶと1からのスタートになる。海外で学んだことを生かして独立した方が良いのでは」と背中を押され、市内に自身の工房を開設しました。



陶芸は土練りや釉薬の調合、窯詰めなど、力と時間を必要とする作業ばかり。作品を焼く時は窯場に約20時間こもりまです。「納得のいく作品ができず行き詰まる」こともあるそうですが、「暮らしの中で欠かさない器だから、長く使える良い作品を作りたい」という思いが安田さんを突き動かす原動力になっています。こうした

苦勞と思いの詰まった器は、使いやすいだけでなく、料理を引き立たせる、さりげない美しさを宿しています。

現在は陶芸教室や個展、ものづくりの仲間とイベントなどを開催している安田さん。いつかは「留学した経験を生かし、外国人観光客に陶芸を体験してもらえようになりたい」と意欲を見せます。

※このコーナーでは、スポーツや文化・芸術活動などに情熱を注ぐ若者や子どもたちを紹介します。

## 三原城跡のライトアップ

撮影エピソード 撮影者 たなだ おさむ 棚田 修さん

天主台堀周辺は三原城跡歴史公園として整備されました。公園からはライトアップによって幻想的に浮かび上がる三原城跡を眺めることができます。



●撮影年月 平成29年8月  
●撮影場所 館町

### 写真・絵を募集しています

#### テーマ

～あなたが残したい三原の風景～

**応募資格** 市内在住・在勤・在学の人  
**選考** 総務広報課で選考

※応募作品の著作権は市に帰属し、市の公式フェイスブックで紹介させていただく場合があります。

※応募作品は返却しません。

**申し込み** 郵送またはEメールで写真(L判・データ)か絵(大きさは画用紙A3サイズまで)と①名前②住所・電話番号③撮影・制作日④撮影・題材場所⑤作品名⑥作品エピソード(70字以内)を総務広報課(〒723-8601港町三丁目5番1号 ☎0848・67・6007 ㊟somukoho@city.mihara.hiroshima.jp)へ